

国内産米の海外輸出を手掛けるWakka Japan (ワッカ・ジャパン、札幌市)は、年内にタイ向けのコメ輸出を始める方針だ。グループ企業がバンコクに新店し、日本食レストラン向けのほか、店舗での一般向け販売も始める。在留邦人も多く、市場性が見込めると判断した。海外出店は5カ所目。自社グループでの流通網整備による低コストを強みに新市場を開拓する。

ワッカ、タイにコメ輸出

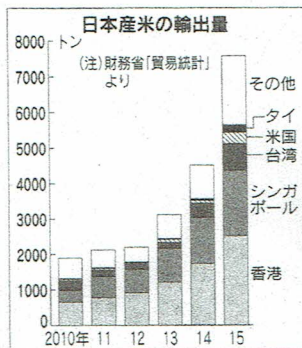


ワッカのグループがハワイに開いた店舗

バンコクの市街地に対した。面店舗を設けるほか、インターネットで注文を受けて配達するネット販売の仕組みを整える。当面は在留邦人を中心とした対象と見込み、店舗は同系のスーパーマーケットの近隣に設置する計画

バンコクに店舗開設

まず邦人に的、ネット販売も



0.8と14年の5倍近くに増えている。「本格的な市場拡大の前に進出しないといけない」(出口友洋社長)として、出店に邁進した。ワッカは09年に香港で事業を開始し、これまでにシンガポール、台湾、米ハワイに出店した。日本

地域とアジア

本産米を玄米のまま輸出し、現地で精米して販売している。タイではこれまで海外からの玄米の輸入実績がないため、タイ政府に玄米での輸出の認可を申請中。認可を前提に年内に進出するための準備を進めている。ハワイには6月に Honolulu市に日本産米の対面販売をする店舗を設けた。北海道産の「ゆめぴ

りか」「なつぼし」など4品種を店頭で販売している。しょうゆや梅干しなど日本食の素材も販売しており、バンコクに設ける店舗もほぼ同様になる見込みだ。ワッカグループが手掛ける14年産米の輸出実績は571トに達し、14年の日本産米の輸出総量の13%ほどに相当する。15年産米については800トの販売を目標にしている。ワッカは日本から現地の流通網を自社グループ

北海道旅客鉄道(JR)函館方面を結ぶ列車の乗客増が押し上げ要因となった。一方、道東や道北方面は伸び悩んでいる。北海道新幹線の予約席数は昨年より3往復多い12往復に増強したことも寄与している模様だ。釧路・帯広方面は4・6%減、網走方面は10・3%減、稚内方面は9・9%減と

国、道、専門家らで構成するタンチョウ給餌量調整等連絡会議が釧路市内で28日開かれ、環境省釧路自然環境事務所は釧路市阿寒町鶴居村の3大給餌場で実施している給餌の量を2016年度は前年度比1割削減する方針を示した。また、タンチョウの個体数が増えているため、将来は国の保護増殖事業による給餌を終了することを今後の論点として提示した。環境省はタンチョウの生息地分散に向け、3大給餌場の給餌について14年度からの5年間で5割削減する方針。これに沿い、16年度は前年度比1割減の約2万8332羽とする計画。19年度に計画通り5割削減した後は、1国による保護増殖事業が終了する

お盆、特急予約65%増 JR北

北海道新幹線(新青森-帯広)は28日、お盆期間(8月10-18日)の特急予約が前年同様の11万2045席で、開業後初の盆休みを迎える。北海道新幹線(新青森-帯広)は28日、お盆期間(8月10-18日)の特急予約が前年同様の11万2045席で、開業後初の盆休みを迎える。北海道新幹線(新青森-帯広)は28日、お盆期間(8月10-18日)の特急予約が前年同様の11万2045席で、開業後初の盆休みを迎える。

タンチョウの餌1割減

環境省が今年度方針 削減する方針を示した。また、タンチョウの個体数が増えているため、将来は国の保護増殖事業による給餌を終了することを今後の論点として提示した。環境省はタンチョウの生息地分散に向け、3大給餌場の給餌について14年度からの5年間で5割削減する方針。これに沿い、16年度は前年度比1割減の約2万8332羽とする計画。19年度に計画通り5割削減した後は、1国による保護増殖事業が終了する

個体増、将来は終了視野 環境省はタンチョウの生息地分散に向け、3大給餌場の給餌について14年度からの5年間で5割削減する方針。これに沿い、16年度は前年度比1割減の約2万8332羽とする計画。19年度に計画通り5割削減した後は、1国による保護増殖事業が終了する